様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　令和 7 年　1 月　4 日

１．職名・氏名　学術教養センター　教授　石丸香苗

２．学位　　学位　農学博士、専門分野　森林生態学、授与機関　京都大学、授与年　2005 年

３．教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

導入ゼミ(なぜから考える科学) (2 単位)　１年

②内容・ねらい（自由記述）

自然科学・社会科学ともに、科学の基本は疑問を持って、それを確かめたいという気持ちから始まります。このゼミでは、なぜ?の気持ちを持つ練習をします。目標①なぜ?という気持ちを持つことに慣れる②なぜ?と思った事について調べる力を身に付ける③なぜ?から真実に至るプロセスを正しくたどれる力や方法の基礎を身に付ける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

今年度から利用開始になったアクティブ・ラーニング室を利用して、ディスカッション・グループワークやフィールドワークなどを積極的に取り入れた。導入ゼミの共通資料や共用図書ができたので、それらも積極的に活用した。図書館の利用も積極的に行い、自主性を重視した授業開発を行った。また、新入生の履修登録漏れなどがないよう、例年以上に履修指導を丁寧に行った。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　2 件】

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

教養ゼミ(エシカルな社会を考える) (2 単位)　１年

②　内容・ねらい（自由記述）

途上国や格差など、社会問題の根幹にある原因や、自らの行動により引き起こされる結果を想像し、より倫理的(エシカル)な社会のあり方を考えます。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

講義室だけではなく、図書館や情報演習室なども含みながら、ゲーム形式のシミュレーション、チームに分かれたディベート、グループディスカッションや個人のワーク、プレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた。また、文献調査・文献管理ソフトの使い方、レポート作成やレジュメの作り方、スライド作成の時に配慮すべきコツ、メールの書き方など、専門課程において学業に必要となる知識や技能を身に着けられる内容にしている。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　2 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

地理学(2 単位)　全学年

②内容・ねらい（自由記述）

地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問である。本授業では地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
地理の情報を得るだけではなく、情報を空間的に整理してものごとを理解・推測できるような力を得られるように、授業の合間に小テストや質問を挟んでいる。小テストとふりかえりには毎回コメントを付して返却し、学習ポートフォリオとして期末レポートの参考に役立つようにしている。授業には折り紙を使った地形図の理解や、ビデオなど、飽きずに理解しやすい工夫をしている。また、取り上げる話題も、福井や海外、身の回りの事柄から世界の生活、宗教や言語と地理学など多岐にわたる分野を扱い、地理学のコンセプトが理解できるようにした。授業は講義形式以外に兼定島でのフィールドワークや、世界が 100 人の村だったらワークショップなど、体も動かせるタイプのアクティブ・ラーニングを取り入れた。

【ゲストスピーカー　1 人】
【フィールドワーク等　3 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
南米の社会と環境(永平寺キャンパス対象対面授業) (2 単位)　全学年

② 内容・ねらい（自由記述）
環境問題の生まれる原因には、社会の様々な要因が関係している。よって環境問題の解決には、社会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど人間の積極的な関与が必要になる。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだした様々な背景について理解しなくてはならない。本科目では、ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国をテーマに取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考える。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や風習に与える影響についても考える。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
論理的思考力を持つ・授業内容への興味を持たせることを目的に、講義前に小テストを行っている。テストは正解・不正解ではなく、得られた情報からどう考えて判断したかを評価する。先住民族の工芸づくり体験、ブラジルの福井村で国際協力に関わったゲストスピーカーによる現地のお話などを行い、アクティブ・ラーニングを取り入れて設計している。

【ゲストスピーカー　5 人】
【フィールドワーク等　0 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
南米の社会と環境(小浜キャンパス対象オンライン授業) (2 単位)　全学年

②内容・ねらい（自由記述）
環境問題の生まれる原因には、社会の様々な要因が関係している。よって環境問題の解決には、社会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど人間の積極的な関与が必要になる。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだした様々な背景について理解しなくてはならない。本科目では、ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国をテーマに取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考える。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や風習に与える影響についても考える。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
論理的思考力を持つ・授業内容への興味を持たせることを目的に、講義前に小テストを行っている。テストは正解・不正解ではなく、得られた情報からどう考えて判断したかを評価する。先住民族の工芸づくり体験、ブラジルの福井村で国際協力に関わったゲストスピーカーによる現地のお話などを行い、アクティブ・ラーニングを取り入れて設計している。

【ゲストスピーカー　4 人】
【フィールドワーク等　0 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
地域社会とフィールドワーク B(地域資源開発実践 1) (2 単位)　全学年

② 内容・ねらい（自由記述）
永平寺町の地域の方々へのヒアリングや文献調査などで得られた情報をもとに、動画編集ソ

フトを使って永平寺町をアピールする動画を作成する。授業は平日の講義や演習と、週末のフィールドワークを組み合わせ、最終日は永平寺町の役場や協力者の方々、県庁まちづくり関係者等を招いてオープンハウスを行った。目的は、①ヒアリングや文献などから、目的に必要な地域の情報を抽出できる。②得られた情報を整理し、届けたいターゲットに適切な形で発信できる③異なる専門分野の学生や、世代の異なる様々な地域の方々と、コミュニケーションをとることができる④グループや地域の方々との連絡方法のマナーを身につける⑤永平寺町の文化や産業などの特色を知り理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

地域の人びとから直接話を聞くことや、自分たちでアポイントを取って自主的に活動する力をつけるように授業を組み立てた。FAA の助成金を活用してフィールドワークを重視した。

【ゲストスピーカー　10 人】
【フィールドワーク等　0 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

地域社会とフィールドワーク C(地域資源開発実践 2) (2 単位)　全学年

②内容・ねらい（自由記述）

永平寺町の地域の方々へのヒアリングや文献調査などで得られた情報をもとに、動画編集ソフトを使って永平寺町をアピールする動画を作成する。授業は平日の講義や演習と、週末のフィールドワークを組み合わせ、最終日は永平寺町の役場や協力者の方々、県庁まちづくり関係者等を招いてオープンハウスを行った。目的は、①ヒアリングや文献などから、目的に必要な地域の情報を抽出できる。②得られた情報を整理し、届けたいターゲットに適切な形で発信できる③異なる専門分野の学生や、世代の異なる様々な地域の方々と、コミュニケーションをとることができる④グループや地域の方々との連絡方法のマナーを身につける⑤永平寺町の文化や産業などの特色を知り理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

地域の人びとから直接話を聞くことや、自分たちでアポイントを取って自主的に活動する力をつけるように授業を組み立てた。FAA の助成金を活用してフィールドワークを重視した。

【ゲストスピーカー　10 人】
【フィールドワーク等　0 件】

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

ポルトガル語(1 単位)　全学年

②　内容・ねらい（自由記述）

福井県で最も多い外国人はブラジル人です。また、福井県から多くの方が移民としてブラジルへ行っています。私たちにかかわりの深いブラジルという国の文化や生活習慣を学ぶとともに、日々のコミュニケーションに生かせる入門的なポルトガル語会話を学びます。言葉だけではなく、考え方や習慣の違いがどのような背景によって生まれるのかを考える、多文化共生の姿勢も考えます。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

馴染みのないポルトガル語を学ぶので、使用されているブラジルについての雑学を紹介することによって、関心を高める努力をした。毎回の小テストで各単元のれかぃどを確認している。履修者が 100 人超と多いため、Google Forms の自動採点を毎回の小テストに取り入れた。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　0 件】

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

専攻演習　地域資源論演習Ⅰ(2 単位)　経済学研究科修士１−２年

②　内容・ねらい（自由記述）

自然や人、景観などを含めた地域資源利用に関する知見を深めるため、文献での学習とフィ

ールドワークを併用する。参加者・教員間のディスカッションを中心に進める。 地域の資源利用の全体像を理解する。地域の文献から適切に情報を収集する方法を身に着ける。質的・量的データの収集方法を身に着ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

参加者の選んだ参考文献をテーマにしたディスカッションを中心として行った。反転授業として、学生に授業前に必ず当該箇所を読んでおくことを課したので、ディスカッションに長く時間を割けた。実際にアンケートを作成し学内で実施させたことで、量的・質的データ収集の基礎についても実践的に学んだ。フィールドワークを積極的に行い、自主的な調査の能力の涵養に努めた。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　0 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

専攻演習　地域資源論演習Ⅱ(2 単位)　経済学研究科修士１･２年

② 内容・ねらい（自由記述）

修士論文作成に必要となる知識や技能を身に着けるとともに、それをとおして修士論文計画を自律的に立てる能力を身に着ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

インタビュー調査、アンケート調査、データ解析、文献調査、スライド・レジュメ作成などのコツやポイントなど、必要だがしっかりと身に着けていない部分に注目し、具体的な対策を中心に綿密な指導を行っている。

【ゲストスピーカー　0 人】
【フィールドワーク等　0 件】

(2) その他の教育活動

- 食農環境実習Ⅰ・Ⅱ(創造農学科) 協力教員として森林実習とデータ解析を担当
- 経済学研究科研究科メンバー (経済学研究科前期課程学生の修士論文指導・主査)
- 創造農学科の卒論生一名、修士課程学生一名の研究指導を行っている(水口亜樹先生指導の学生を引き継ぎ。生物資源の正式な協力教員になっていないので非公式だが、週に 3 コマ分のゼミを開催し全般的な卒論・修論研究指導を行っている)

４．研究業績

(1) 研究業績の公表

① 著書

世界の生態系で何が起きているのか? －リモートセンシングで探る世界の問題生態系－
吉川沙耶花, 石丸香苗 (担当:共著, 範囲:アマゾン流域の保全と活用のゆくえは?)
(一社)リモートセンシング学会 問題生態系計測研究会 2024 年 1 月 1 日 (ISBN: 9784600013882)

【1 本】

② 学術論文（査読あり）

Soyoka Makino, Naoko Tokuchi, Daisuke Akaishi, Lina A. Koyama, Yukio Komai, Yoshimi Itaya, Nay Lin Maung, Kanae Ishimaru, Tomoki Oda, Rei Shibata, Shinya Numamoto. "Citizen‐participatory nationwide survey of mountain streamwater chemistry in Japan in 2022: Comparison of nitrate concentrations with the 2003 survey." *Ecological Research* (2024).

【1 本】

③ その他論文（査読なし）

1. 日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集
2. Proceedings of Annual meeting of AGU (AGU24)

【2 本】

④ 学会発表等

1. 西表島仲間川マングローブ林床の衰退状況について ～利用を通じた資源管理(第三報)～ 石丸香苗，渕上ゆかり，谷口慎吾，上須道則，渕上祐樹.日本熱帯生態学会第 34 回年次大会 2024 年 6 月
2. Agro-Pastoral Expansion and Land Use/Land Cover Change Dynamics in the Brazilian Amazon. Sayaka Yoshikawa and Kanae Ishimaru. American Geophysical Union (AGU24). Washingon, D.C., 2024 年 12 月

【2 件】

⑤ その他の公表実績

1. 人間の尊厳を叶える小さな農業―アマゾン小農集落より 石丸香苗　万博国際交流プログラムシンポジウム ブラジルの環境から考える「持続的な世界のため私たちができること」」 2024 年 12 月 14 日
2. 第 47 回全国育樹祭 育林交流集会 ナビゲーター　福井県・公益社団法人国土緑化推進機構 2024 年 10 月 19 日
3. その他新聞記事多数

【2 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

- （代表）「ESG の世界的潮流は世界の食糧安全保障に危機をもたらすかーブラジルと日本の視座から」 日本学術振興会 科学研究費補助金 2024 年度 挑戦的研究（開拓） 2024 年 8 月 – 2029 年 3 月．石丸香苗，舛方周一郎，光安光江，吉川紗耶花，徳地直子，佐野聖香，渕上ゆかり，藤澤奈都穂（直接経費 1970 万円）
- （分担）「多面的機能を考慮した福島の森林再生のための総合的評価手法の開発」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 2024 年 4 月 – 2029 年 3 月島田 洋子，石丸 香苗，大手 信人，張 曼青，徳地 直子，原田 浩二，渕上 佑樹
- （分担）「研究データエコシステム構築事業(代表：京都大学フィールド研究センター，徳地直子)」国立情報学研究所受託事業　2023 年度-2025 年度
- 福井県未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）「学生目線の永平寺町アピールの動画作成」2024 年 5 月-2025 年 3 月

【学内】

- （代表）「越前和紙原料の県内安定供給を可能にする非木材林産物に関する萌芽的研究」 福井県立大学 戦略的課題研究推進支援 2022 年 5 月-2024 年 3 月

(3)特許等取得

なし

(4)学会活動等

- 第 34 回熱帯生態学会(2024)福井大会　大会実行委員長　(福井県国際交流会館)
- アンデス・アマゾン学会　運営委員・編集委員

５．地域・社会貢献活動

①-2 委員就任(県)

- 福井県　森林審議会　委員　2002-

①-3 委員就任(県)

- 大野市　おおの森づくりプラン策定委員会　委員長　2023-
- 南越前町　名勝「おくのほそ道の風景地　湯尾峠」保存活用計画策定委員会　委員　2023-

③　国・地方公共団体等の受託事業等

- 九頭竜川流域懇談会，委員 2024-
- 第 47 回全国育樹祭　育林集会　ナビゲーター 2024 年 11 月

⑥ 大学間あるいは大学等後期要請の強い団体との共催事業等

- 全国ダイバーシティネットワーク北陸ブロック委員
- 福井県受託事業万博国際交流プログラム　シンポジウム「ブラジルの環境から考える私たちにできること」（福井県主催・福井県立大学共催）　共催として大学側窓口担当
- 日本熱帯生態学会福井大会　公開シンポジウム「へしこ・魚醤のあるくらしー東南アジア・日本の地域食」（日本熱帯生態学会主催・福井県立大学後援）　大会実行委員長として開催担当

６．大学運営への参画

(1)補職

- 学生部長　2023-
- 保健・学生相談センター長　2023-

(2)委員会・チーム活動

- 学生支援委員会 委員長 2023-
- 保健・学生相談センター運営委員会　委員長 2023-
- 教育研究審議会 委員 2023-
- 教育研究委員会 委員 2023-
- ハラスメント等人権委員会　委員 2019-
- 国際センター(仮)　準備委員会 委員 2023-
- 文系新学部(仮称)準備プロジェクトチーム会議 委員 2023-

(3)学内行事への参加

- 一般教育前期オリエンテーション　新入生向け履修相談会（学術教養センター）
- 一般教育後期オリエンテーション　履修登録指導（学術教養センター）

(4)その他、自発的活動など

- ブラジル福井県文化協会(通称福井県人会)およびコロニア・ピニャール(通称福井村)との包括連携協定を締結
- 福井県国際経済課とともに万博国際交流プログラムで学生 3 名をブラジルでの研修に引率
- ワールドカフェにて多文化共生における大学教育についてのセミナー開催を担当(2024 年 7 月)
- サークル等顧問(学友会、エシカルサークル、CS サークル、ボードゲームサークル、YOLO サークル、地域プレイヤー交流サークル「TSUNAGARU」)
- ワールドカフェでポルトガル語会話勉強会を開催